

陶邑・谷山池12号窯

2001年3月

大阪府教育委員会

はしがき

陶邑窯跡群は、堺市南部から大阪狹山市、和泉市にかけてひろがる5世紀から10世紀まで続く我が国最大の須恵器生産遺跡です。

また、弥生時代の池上曾根遺跡、古墳時代の白舌鳥古墳群や和泉黄金塚古墳等とともに和泉地域の代表的な遺跡として挙げられる重要な遺跡でもあります。須恵器は、古墳時代から奈良・平安時代にかけて、それまでの縄文、弥生時代の土器、古墳時代以降の土師器とは異質の、大陸・半島系の技術によって成立した新しい土器です。『日本書記』に記された「河内国茅渟県陶邑」は、堺市南部の一部がかつて陶器村と呼ばれていたことや「スエ」の地名を有する場所から須恵器が出土することが多いこと等から、現在の泉北ニュータウンを含む広い地域であったと考えられています。

本府教育委員会では、柑橘母樹園跡地整備に伴い、所在する窯跡について発掘調査と遺物整理事業を実施してきました。従来乏しかった谷山池地区の須恵器の資料を報告することができ、今後の調査・研究に大きな貢献をはたすことができるものと思われます。

発掘調査に際しまして地元の皆様並びに関係各位のご協力を得ましたことに深く感謝いたしますとともに、今後とも本府の文化財保護行政へのご理解とご協力をお願いいたします。

平成13年3月

大阪府教育委員会

文化財保護課長 小林 栄

例　　言

1. 本書は、大阪府教育委員会が実施した柑橘母樹園跡地整備事業に伴う、和泉市銀治屋町および浦田町所在陶邑窯跡群（谷山池12号窯跡）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は大阪府環境農林水産部農の振興整備室（現農政室）の依頼を受けた文化財保護課が、平成10年9月から11年3月まで調査第1係主任技師今村道雄を担当者として実施した。遺物整理は、平成11年4月から平成13年3月まで、今村及び資料係技師井西貴子、調査管理グループ技師小浜　成を担当者として実施した。
3. 航空写真測量は、㈱ウエスコに委託して実施した。なお、撮影フィルムは同社において保管している。
4. 本書の執筆・編集は、今村が行った。
5. 発掘調査、遺物整理及び本書作成に要した経費は、全額大阪府環境農林水産部が負担した。

は し が き

陶邑窯跡群は、堺市南部から大阪狭山市、和泉市にかけてひろがる5世紀から10世紀まで続く我が国最大の須恵器生産遺跡です。

また、弥生時代の池上曾根遺跡、古墳時代の百舌鳥古墳群や和泉黄金塚古墳等とともに和泉地域の代表的な遺跡として挙げられる重要な遺跡でもあります。須恵器は、古墳時代から奈良・平安時代にかけて、それまでの縄文、弥生時代の土器、古墳時代以降の土師器とは異質の、大陸・半島系の技術によって成立した新しい土器です。『日本書記』に記された「河内国茅渟縣陶邑」は、堺市南部の一部がかつて陶器村と呼ばれていたことや「スエ」の地名を有する場所から須恵器が出土することが多いこと等から、現在の泉北ニュータウンを含む広い地域であったと考えられています。

本府教育委員会では、柑橘母樹園跡地整備に伴い、所在する窯跡について発掘調査と遺物整理事業を実施してきました。従来乏しかった谷山池地区の須恵器の資料を報告することができ、今後の調査・研究に大きな貢献をはたすことができるものと思われます。

発掘調査に際しまして地元の皆様並びに関係各位のご協力を得ましたことに深く感謝いたしますとともに、今後とも本府の文化財保護行政へのご理解とご協力をお願いいたします。

平成13年3月

大阪府教育委員会

文化財保護課長 小林 栄

目 次

第1章 調査にいたる経過.....	1
第2章 調査成果.....	7
遺構.....	7
遺物.....	15
まとめ.....	22
遺物観察表.....	23~30

挿 図 目 次

第1図 調査地位置図.....	2
第2図 谷山池12号窯周辺の地形と窯跡分布図.....	3
第3図 谷山池12号窯調査地平面図.....	5
第4図 谷山池12号窯平面図断面土層断面図.....	6
第5図 谷山池12号窯原縦断土層断面図.....	7
第6図 分布調査成果図（和泉丘陵遺跡分布状況調査会報告書1977）から.....	8
第7図 谷山池12窯周辺の地形と窯跡分布図（和泉丘陵内遺跡調査会報告書）から.....	9
第8図 窯体床面、窯体埋土出土遺物実測図.....	10
第9図 上器群1、土器群2出土遺物実測図.....	11
第10図 窯体南側出土遺物実測図.....	12
第11図 灰原1区、2区出土遺物実測図.....	13
第12図 灰原2区、3区、4区出土遺物実測図.....	14
第13図 灰原4区、包含層出土遺物実測図.....	15
第14図 ヘラ記号、杯内面同心円文、杯外調整.....	16
第15図 杯加工品、穿孔円盤、砥石実測図.....	17
第16図 軒丸瓦、丸瓦実測図.....	18
第17図 T N56、T N58、T N61採集遺物実測図.....	19

図 版 目 次

図版カット写真 窯体南側出土臺	図版7 遺構 (上)	窯体検出状況(北から)
図版1 遺構 (上) 調査区遠景	(下)	窯体検出状況(北から)
(下) 調査区近景	図版8 遺構 (上)	窯体断ち割り状況
図版2 遺構 (上) 機械掘削状況	(下)	近世清検出状況
(下) 灰原除去後の旧地形	図版9 遺物	
図版3 遺構 (上) 窯体調査状況(東から)	図版10 遺物	
(下) 窯体調査状況(南から)	図版11 遺物	
図版4 遺構 (上) 床面遺物遺存状況	図版12 遺物	
(下) 床面遺物出土状況	図版13 遺物	
図版5 遺構 (上) 窯南側土器群1出土状況	図版14 遺物	
(下) 窯南側土器群1出土状況	図版15 遺物	
図版6 遺構 (上) 窯南側土器群1出土状況(細部)	図版16 遺物	
(下) 窯南側土器群2出土状況(細部)		

第1章 調査にいたる経過

陶邑・谷山池12号窯は、陶邑窯跡群谷山池支群に含まれ、古墳時代後半の須恵器を生産した登り窯（以下T N12とも略する）で、大阪南部の和泉市鍛治屋町および浦田町（第1図）の元府立柑橘母樹園果樹センター内に位置します。かつて同センターは、蜜柑や八朔等の品種改良のために各種柑橘類の交配や接ぎ木育成等を行い、泉州地域の丘陵地帯の農家に苗木を供給していました。各農家は果樹を栽培し、摘み取られた蜜柑は泉州蜜柑として市場に出荷されていました。しかしここ10数年来、産地の多様化や消費者の嗜好の変化により競争が激化し、泉州蜜柑の需要は減少し、それに伴い果樹センターの機能の意義は薄れ、羽曳野市に設立された農林センターに統合されることになり今から10数年前の昭和59年3月廃止されました。

廃止後、果樹センター跡地の管理は民間人に委ねられてきましたが、泉北ニュータウンの充実、近年は当地の北西1kmに和泉中央駅が設置され、通勤手段や付近の交通事情が大きく変化し、都市整備公団によって手がけられてきた宅地開発は、付近の地価に著しい影響を与え土地の高度利用を促す結果となりました。ニュータウンの拡張は旧市街地と新市街地に格差を生み、特に道路開発は生活、産業基盤に大きな影響を与えております。

国道480号線から西に500mほど奥にある果樹センターに至るには、旧村落内を通行しなければならず大型車両の通行が不可能となっています。このため跡地の利用は、交通問題で大きな制限を受けるため、ニュータウンとを隔てている丘陵を抜けて和泉中央駅側との通行を計り、土地の利用効果を高めようとするためです。

谷山池12号窯等の立地する場所は、かつて和泉丘陵と呼ばれ、今でも所々に丘陵の面影を残している。和泉中央駅を中心にして「いぶき野」、「のぞみ野」、「はつが野」と呼ばれている箇所の開発に際して、事前に予定地内の埋蔵文化財の分布調査を実施した際に発見された窯跡である。調査は、昭和52年2月2日から3月31日まで行われその成果の一部は「泉丘陵遺跡分布調査報告書」（1977年3月）として報告されている。この調査で確認できた窯跡や散布地は同書に次のように報告されている。

大池周辺	窯跡	33箇所のうち確認した窯跡9箇所
長池周辺	窯跡	19箇所のうち確認した窯跡10箇所
谷山池周辺	窯跡	13箇所のうち確認した窯跡8箇所
梨本池周辺	窯跡	21箇所のうち確認した窯跡18箇所

柑橘母樹園センター及び付近は大池周辺地域に含まれ、C 8から20までが確認され、谷山池12号窯はC12地点（第2図）に該当している。同センター敷地内にはC13地点も含まれているようであるが詳細は不明である。その後、和泉丘陵内遺跡調査会によって和泉ニュータウン建設に伴う事前発掘調査が昭和56年度から平成元年度まで行なわれ、散布地と窯跡の有無について試掘調査が行われ、窯跡については調査が実施され、「陶邑窯跡群—谷山池地区の調査一」（1992年）が報告されている。この中で谷山池12号窯に近いC 6地点とC 9地点からは遺物が発見されず、そ



第1図 調査地と谷山池地区市街地図

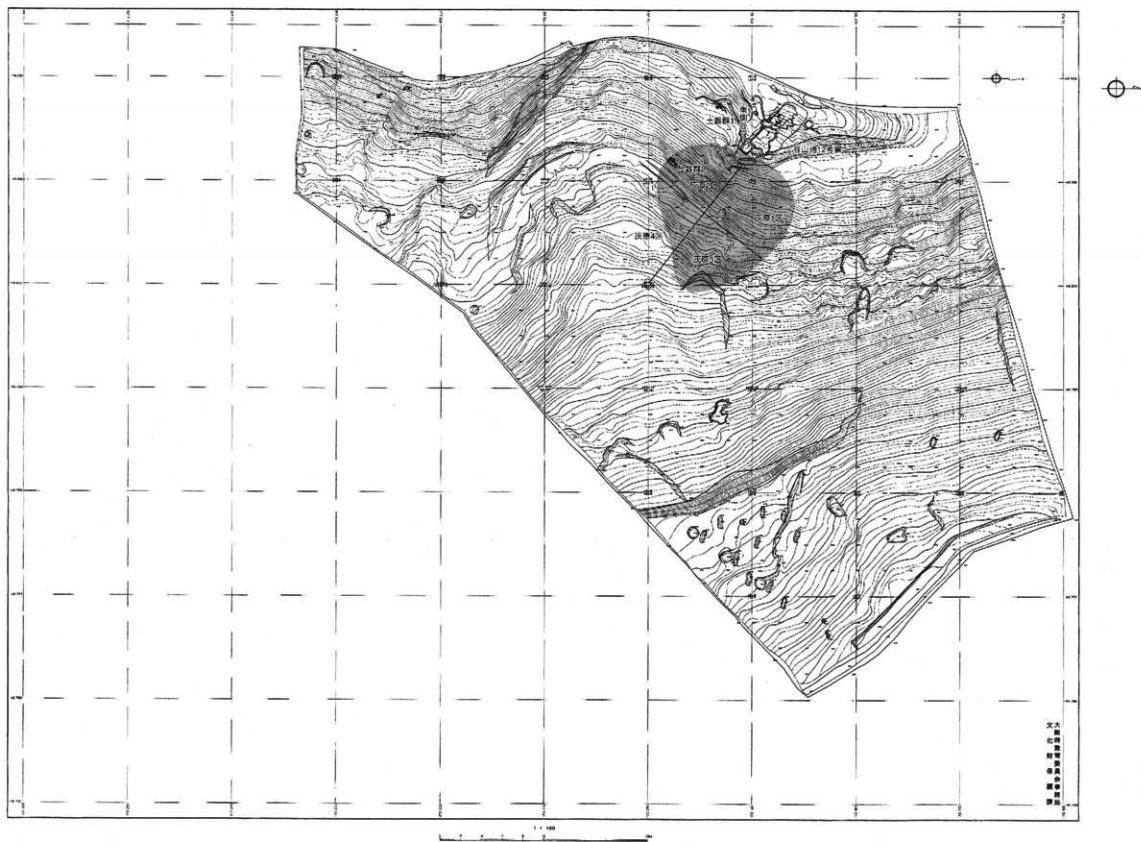


第2図 谷山池12号窯周辺の地形と窯跡分布図

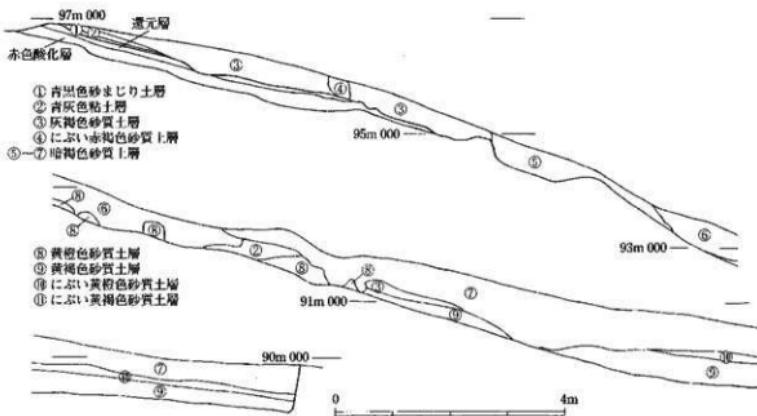
れぞれ窯跡（第7図）から除外された。

大阪府農林部と文化財保護課は、柏橋母樹圓跡地整備（第2図）に当たり既存の窯跡以外にも窯跡が存在する可能性があることから、試掘調査を実施し予定地内の窯跡を確認することとした。

試掘調査は農林部の依頼を受け文化財保護課が実施した。試掘対象範囲は敷地の北半分である。調査期間は、平成8年7月1日から3日で、14箇所の試掘トレンチのうち3箇所から窯壁や須恵器が出土した。この結果に基づき両者は協議を行い、事前発掘調査を平成10年度事業に計画した。現地調査は、平成10年9月に開始し、12月に終了した。



第3図 谷山池12号窯調査地平面図



第5図 谷山池12号窯灰原縦断土層断面図

第2章 調査成果

遺構（第3図、第4図、第5図）

調査概要

12号窯は、丘陵の東側斜面、比高20m余の斜面上部に立地する。現地は果樹園が昭和59年に廃止されてから手入れが行き届かないため孟宗竹と下草が繁茂し、歩くのに困難な状況であった。調査は柑橘母樹園の北半側に、窯跡と灰原部分を含むように東西約50m余、南北約40m余の範囲で面積2,634平方m（第3図）を設定し、草刈りと竹の伐採から始め、表土の除去は重機械を利用した。果樹園であったことから客土や土の天地返しが全域で行われており、地山と整地上、客土の区分が困難であったが、窯体は稜線近くに築かれていたため表土除去後すぐ表れ、確認することができた。

灰原の土は大きく動かされ、当初の土層を観察できる箇所は認められなかった。

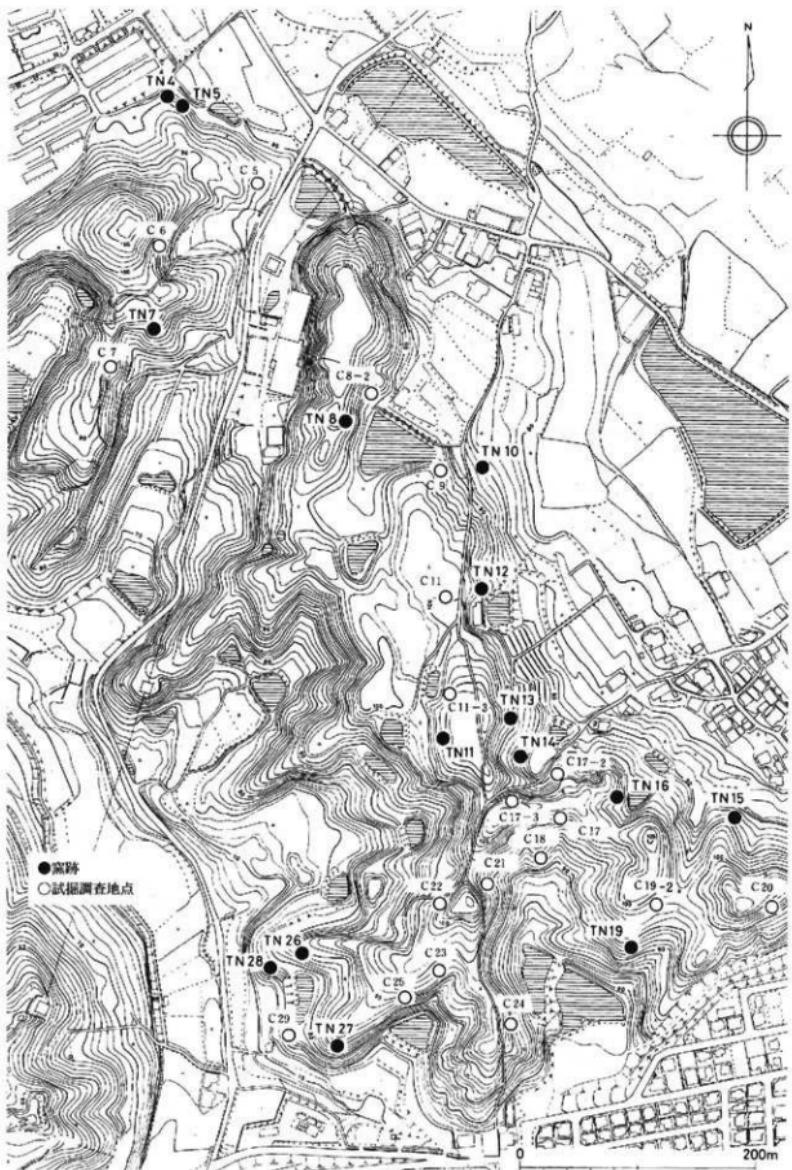
調査を進めた結果T N 12号窯は、焼成部（第4図）を約6m残すのみで、前底部、焚き口、焼成部、左右側壁、天井部、煙道部等は削平され、果樹園の客土として利用されたと考えられる。床面にも大きな穴が目立っている。

窯以外では南側の少し低い所と灰原2区から土器群を2箇所（第3図）検出している。

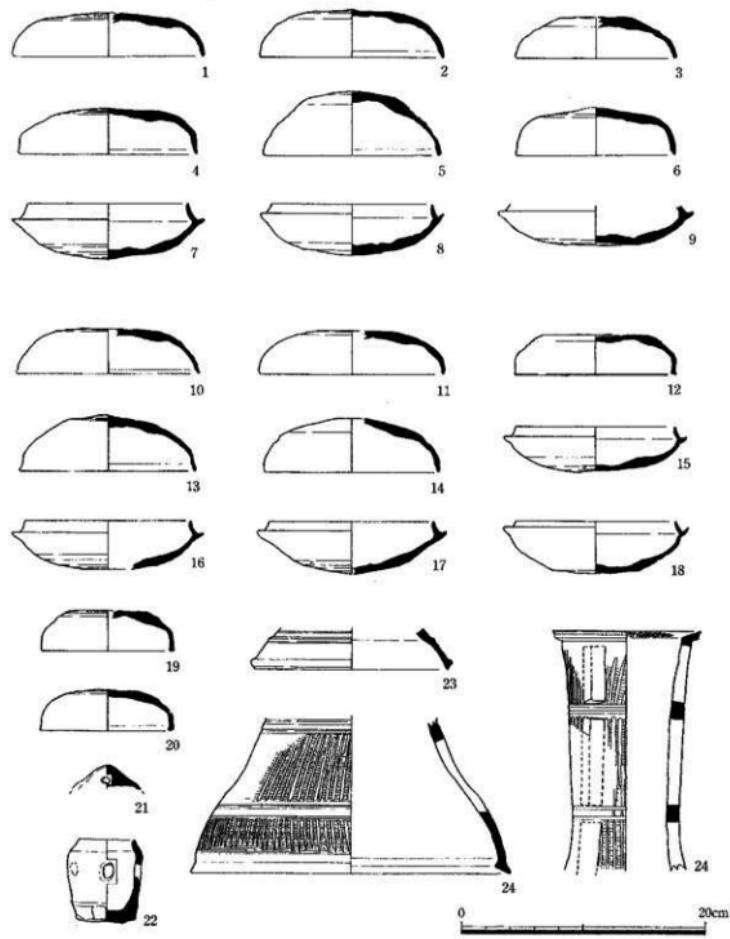
土層 窯の内部に堆積した、須恵器や窯壁を含む青黒色砂質土層、灰褐色砂質土、にぶい赤褐色砂質土を除去すると還元層（断面A、土層1・2の灰色粘質土層や砂利断面B、土層2、灰色砂質土層、断面C、土層6、灰色砂質土層）を認めることができる。還元層の周囲には赤褐色の酸化層（地山、赤焼け）が認められる。還元層の範囲は長さ約5.6m、幅約2m、壁の立ち上がり約30cm、床面の傾斜は約10~12度である。窯を築いた地山の土層は砂の多い砂質土である。赤色酸化層は砂質土に見られる。環元層の枚数から、操業回数は3回以上と考えられる。



第6図 分布調査成果図（和泉丘陵遺跡分布状況調査会報告書 1977年から）



第7図 谷山池12号窯周辺の地形と既応の調査地
(和泉丘陵内遺跡調査会「陶邑古窯址群」1992年から)



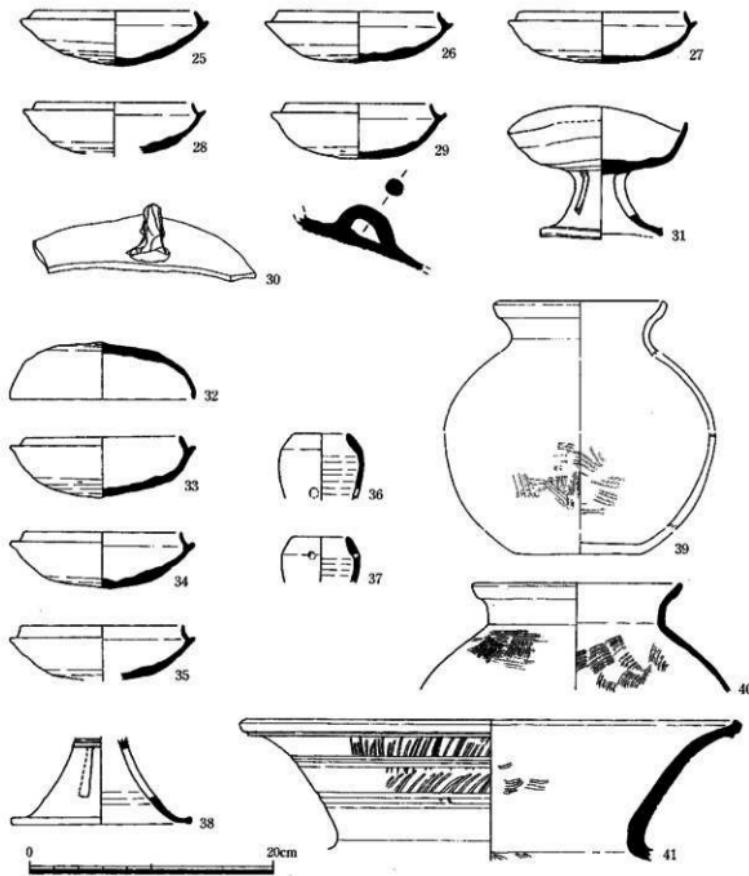
第8図 窯体床面(1~9)、窯体埋土(10~24)出土遺物実測図

床・壁 (第4図)

床の構築は、地山の砂質土の上に粘土を混ぜた土を張っている。操業当初には床に土層2の灰
色砂質土、3の明黄褐色砂質土を張り、次の操業時には土層6の灰色砂質土、5の灰黄褐色砂質
土を床材に使用している。

擾乱の被害をあまり受けていない断面Cでは、床から壁にかけて土を張った状態が観察できる。
部分的な補修の痕跡は第3次操業の際の断面Aの上層1に観察できる。壁材の土はスサを含ん
でいる。

なお床面と遺物の間には細礫を含む褐灰色砂を厚さ5cm前後挟んでいる。この砂は遺物の下に



第9図 土器群1(25~31)、土器群2(32~41)出土遺物実測図

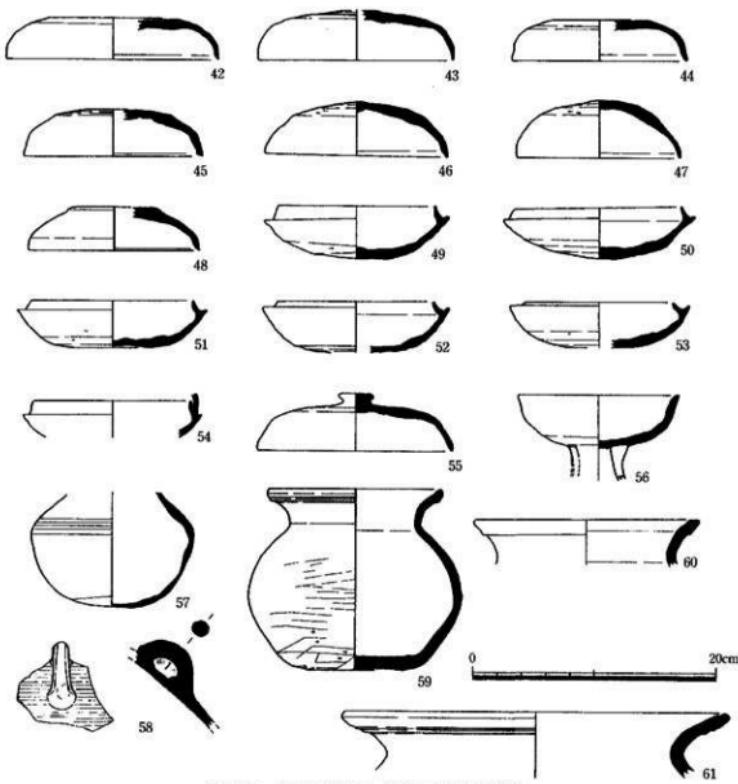
置いたか床面の上に撒き散かれたものとも考えられる。

出土遺物

窯体内部の堆積土を除去後に第8図の1~9の遺物が出土している。床面と遺物の間には褐色砂を挟んでいる。

窯体埋土中の出土遺物は10~24の壺、鉢、器台等の他甕腹の破片である。

土器群1 窯の南6mの谷状地形の中にある。窯の推定焚き口とほぼ同じ高さの標高96m付近にある。一段低い箇所に須恵器壺身25, 29等の6点と甕腹片の計7点が出土した。上器の出土状況は表裏など並べ方に規則性は認められない。他に遺物は出土していない。

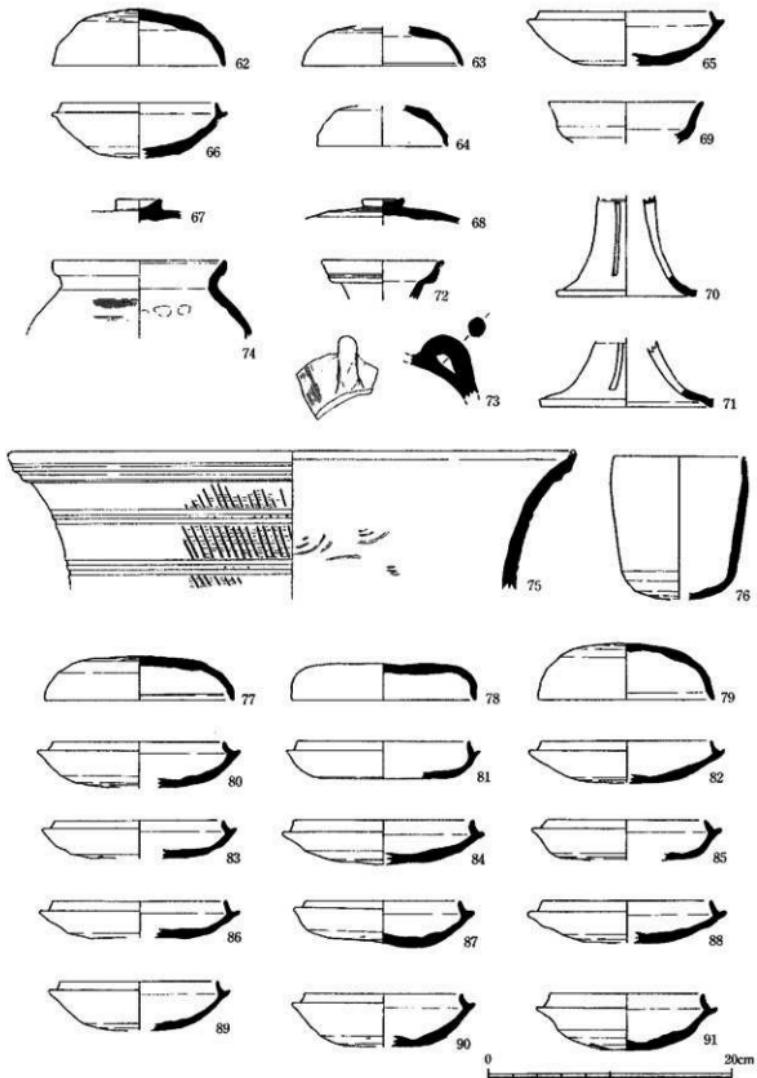


第10図 窯体南側(42~61)出土遺物実測図

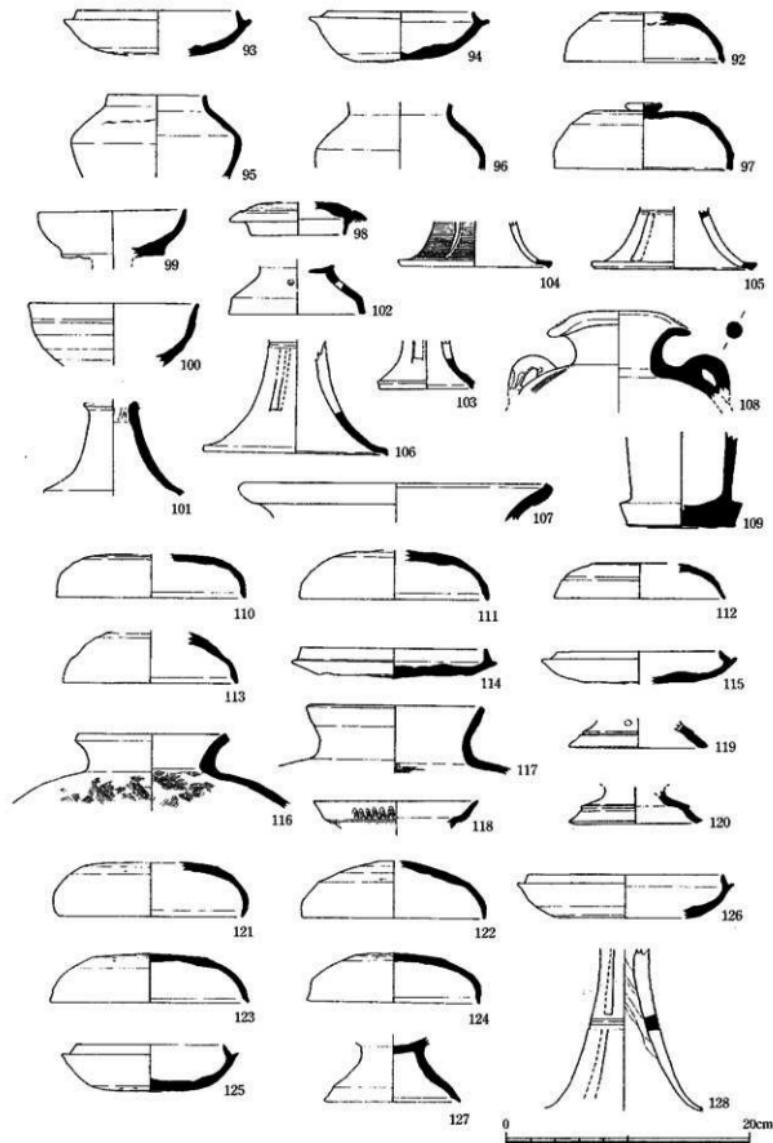
土器群2 灰原2の黒褐色土を除去後砂質土の地山上面から検出した。12号窯から6m、上器群1の南東7mに位置する。緩い斜面にそって下から上に土器が重なり合い、中には壊身34、蜻蛉片36、37、灰白色で薄手の39、40の平底と考えられる甕などが出土している。

谷状地形 12号窯の南西側に小さな谷状の地形が認められた。この谷は窯の南2Mまで近接し、馬蹄形状に広がる。埋上はにぶい黄色と灰黄色砂質土である。この谷状地形の上部に土器群1がある。この谷状地形からは多くの环の他に59平底の軟質の甕が出土している。

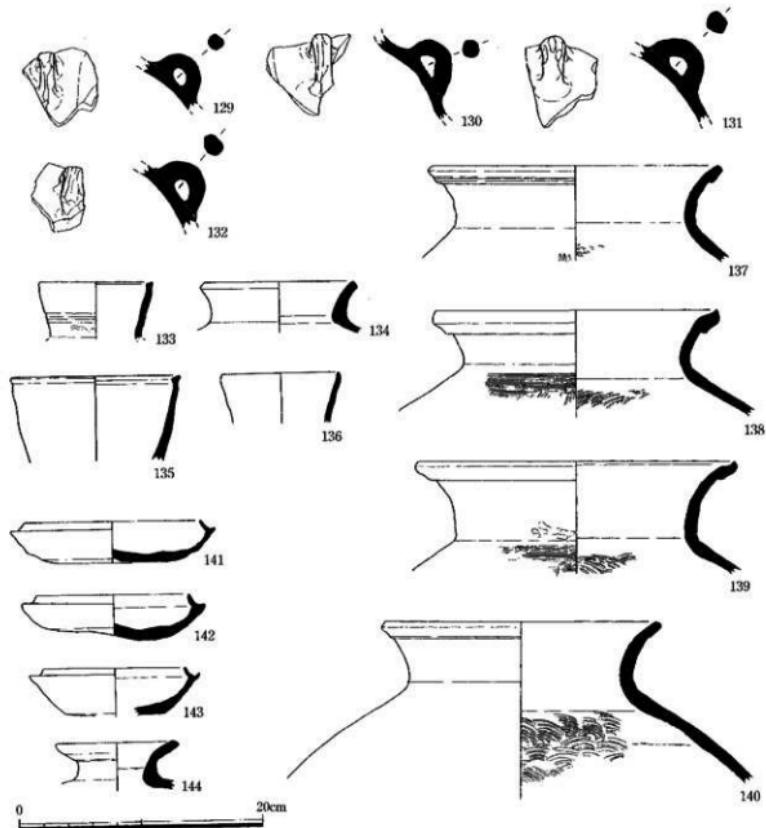
灰原 灰原は窯の斜面下方に20m足らず、左右に15mほど広がり、一部は窯の南側にも広がっている。灰原の土は暗褐色と褐色砂質土である。遺物は須恵器杯、高杯、壺、甕、瓦、砥石等である。



第11図 灰原1区(62~76)、2区(77~91)出土遺物実測図



第12図 灰原2区(92~109)、3区(110~120)、4区(121~128)出土遺物実測図



第13図 灰原4区(129~140)、乞合層(141~144)出土遺物実測図

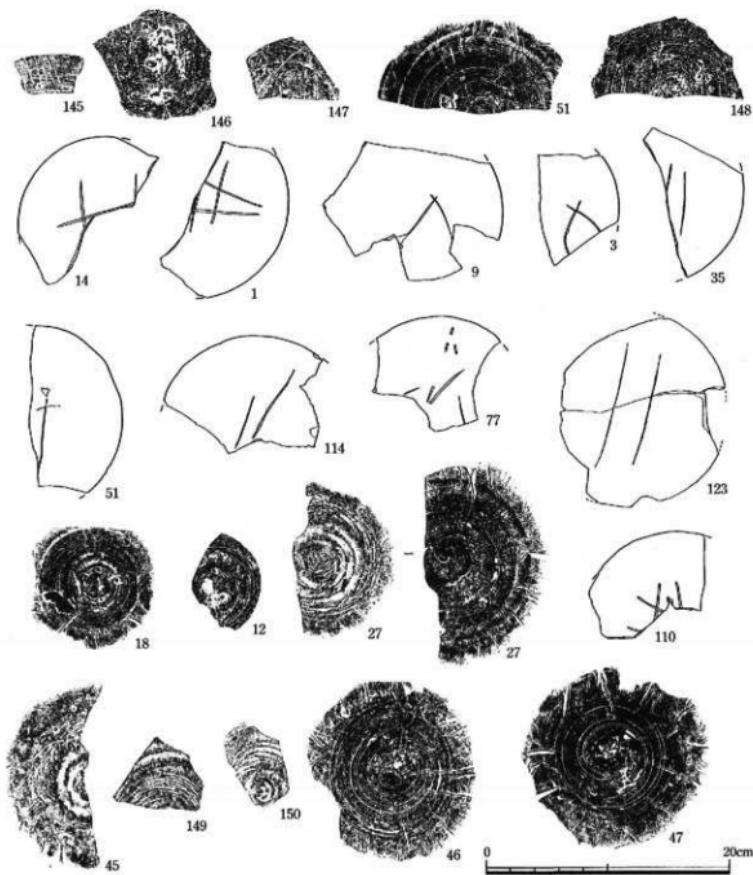
杯蓋 123は外面に赤色顔料を塗布している。この他に赤色顔料を塗布した直口壺の破片1点がある。

遺物（第8図～16図）

今回の調査ではコンテナ40箱の遺物が出土した。大半は須恵器で10,395点を数えた。

各器種の内訳は壺	4,492点	43.2%
杯	5,395点	51.9%
その他	508点	4.9%

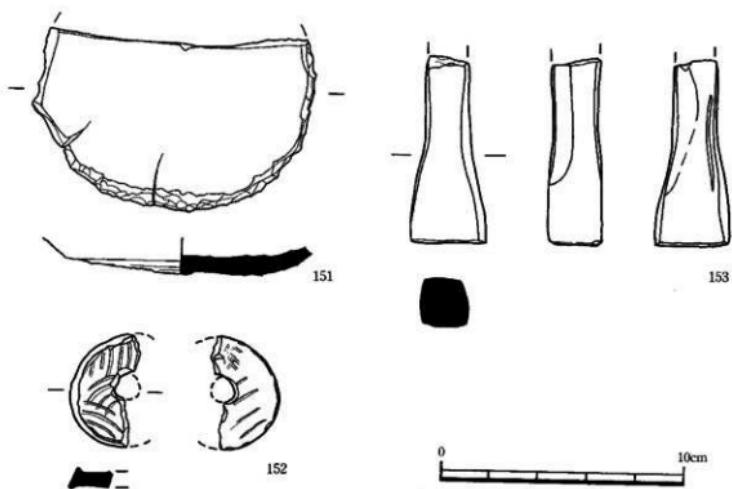
となり、杯が圧倒的に多い。



第14図 ヘラ記号、杯内面同心円文、杯外面調整

その他の器種の内訳は

短頸壺・壺	139点	27%
高杯	136点	27%
提瓶	167点	33%
蛸壺	12点	2 %
横瓶	15点	3 %
器台	7点	1 %
鉢	8点	2 %



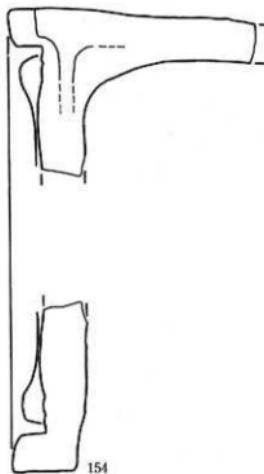
第15図 杯加工品(1)、穿孔円盤(2)、砥石(3)実測図

はそう	13点	3 %
すり鉢	5点	1 %
その他	6点	1 %

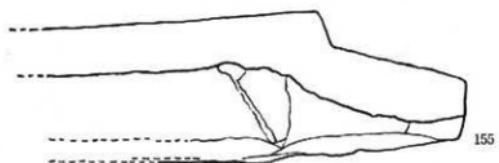
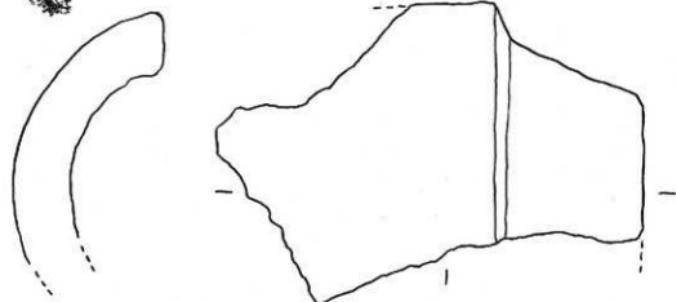
となる。

杯 杯は残存率の多い杯を撰び集計したがほぼ同数出土している。本書に掲載した杯の内、集計に用いた点数は杯蓋32点、杯身43点である。

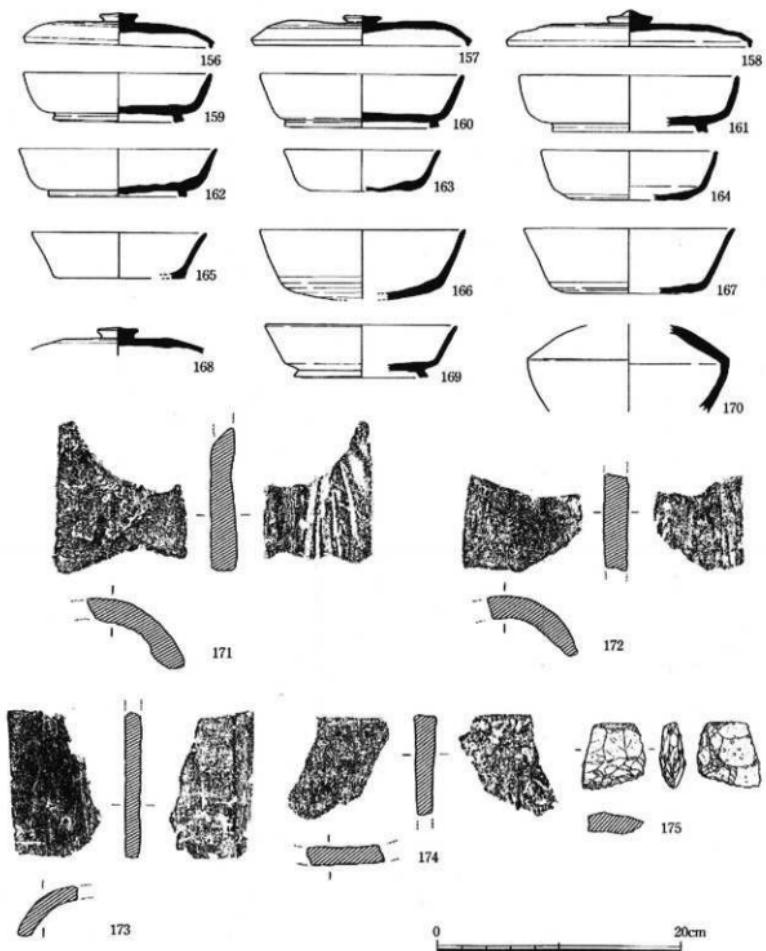
杯蓋は口径12.5~13cm（4点）、13~13.5cm（2点）、13.5~14cm（3点）、14~14.5cm（7点）、14.5~15cm（8点）、15~15.5cm（5点）、15.5cm以上（3点）を数えることができる。陶邑のこの時期の須恵器の編年には中村編年Ⅱ形式3~4段階において、蓋はA~Dに区分されている。田辺編年では、TK43型式に該当する。一方、谷山池地区の調査報告書ではTN8、16号窯の杯としてC1が上げられ、TN7号窯ではC2タイプの杯が主体となしていることが報告されている。12号窯の蓋は14~15cmのものが多いことからTN16号窯のC1タイプの杯と7号窯のC2タイプの杯と比較できそうである。しかし12号窯においては口径13cm前後の杯蓋が見受けられ、杯の天井部の形状、ヘラケズリ、口縁端部の形状等を観察すれば割合平らな天井部が目立つ。TN16号窯の杯と比較すると規格面ではやや縮小している。杯天井部や底部の調整が不十分で、中央に小さくヘラ切り痕（12, 17, 18, 47, 77, 146等）を残したものや（18）のように中央に成形時の粘土をケズリ残したもののが杯163点中35点出現している。またヘラケズリを施しても中央が盛り上



0 10cm



第16図 軒丸瓦(1)、丸瓦(2)実測図



第17図 TN56(156~167)、TN58(168~170)、TN61(171~175) 採集遺物実測図

がり（2, 6, 13, 32, 43等）不安定な形ものが163点中21点になる。壺内面に施されていた静止ナデはこの窯では極めて少なく数点（128）である。杯蓋外面に沈線や段、凹線を用いるものは1点（112）のみで、他の杯には観察できない。この須恵器は高杯の可能性もある。蓋杯の特徴をTN16号、7号窯、一部はTN8号窯のものと比較しつつ述べたが端部内面の形状は凹線状のものが多い。特に口縁端部の形状と杯口径との関係は今後の課題でもある。わづかではあるが、口

径14~15cmの杯蓋は口縁端部内面を凹線状に施したものが7点と多く、稜線を持つもの4点、段になるもの4点、丸い端部のもの3点、内傾する面を持つもの2点である。

杯身は蓋と同様にやや小ぶりな口径11.5~12cm、12~12.5cm前後のもの（7点、2点）、口径12.5~13.0cm前後のもの15点、13.0~13.5、13.5~14cmのものまで（9点、7点）、14~14.5、14.5~15.0、15.0~15.5cmのもの（3点、1点、1点）である。杯身にも蓋と同様に小ぶりな口径の1郡のものがある。この中で杯身第13図143は、底部外面が未調整である。

杯は、この他に内面に同心円文を残すものが少しある。計測した杯75点を含め約360点を観察した結果、同心円文を残すものは28点である。また、同心円文の残る位置は、第14図の127、145~150の様に杯（蓋、身）の内面の一部である。

ヘラ記号は、杯蓋、身（第14図、図版14）ともにみられる。観察した点数は杯及び破片全てである。記号の種類は7種類、34点である。

短頸壺・壺 この中で多いのは短頸壺である。壺は、頸部には凹線文と波状文を施し、器台について多く装飾している。体部の装飾は観察できない。薄い器壁の直口壺も1点あり、(133)と2個体確認できる。(133)の頸部には2本の凹線文とかすかに波状紋が残る。脚台や裾部がかなり出上している。装飾は(23)のように段と稜線を用いるものが多く、波状文等の装飾は極めて少ない。小さな透かしがつくものもある。

高杯 有蓋、無蓋と長脚、短脚に無蓋高杯の蓋がある。しかし、(31)を除いて破片である。波状文や稜線は窺えない。長脚の高杯は2段で、透かしは3方向、方形である。杯部は口縁下に一条の沈線(100)を入れるのが多い。短脚の高杯は、方形と円形透かしのものと、ないもの等がある。(102, 119)の脚の形状の高杯は3方向に円形の透かしを施したものが多い。(103)の脚の形状のものは方形透かしが多い。(127)の脚のタイプのものには透かしがない。点数が少ないため脚の形状と透かしの関係には注意を要する。いずれも杯部は欠けている。脚と杯部の接合面は刻みをほどこしていない。

堤瓶 口縁は直口のもの、やや丸く肥厚するもの(108)、やや角張って肥厚するもの(144)がある。体部の肩には環状の把手が付く(58, 73, 129~132)。体部外面は同心円状にカキ目を施す。

蜻壺 釣り鐘型と鉢型の2種がある。(36)は大阪湾沿岸に少ないタイプである。

横瓶 角張った口縁(116, 134)のものが3点、かすかに肥厚する口縁(117)の他に、丸い口縁が水平に外へ小さくのびるものが2点に体部破片を含めて計15点ある。体部の器壁は薄く、内面は黒色である。

器台 脚から裾部にかけて破片(24)が7点ある。1個体分であろう。脚部はカキ目の上にヘラで縦の刻みを浅く入れ、2本1組の凹線で脚部~裾部の段を区画する。透かしは脚部の各段に方形のものを上下に3段入れる。裾部の透かしは方形であるが、配置は確認できない。脚部は杯部の接合のため上端を斜め上に曲げ接合面としている。脚部と杯部の接合面の刻み目は省かれて

いる。接合面の刻みの省略は全ての器種で進んでいる。杯底部外面はタタキとハケ目が圧着された痕跡を残す。TN12号窯の出土遺物の中で最も装飾に富む遺物である。

鉢 (76) は、内外面を横ナデし、底部外面は静止ケズリの後ナデ調整する丸底の鉢である。
(135) は、肥厚し内傾する口縁の鉢である。

はそう (118) は外上方にのびる口縁端部の外面に波状文を浅く施文している。体部の破片には回線や波状文の装飾は見られない。

その他 (151) の杯の加工品や (152) の穿孔のある円板などがある。(39, 40) の灰白色の色調の甕は両者とも外面に平行タタキの上に浅いヨコハケが残る。(59, 60) は橙色系の色調の甕である。前者の体部外面下半にはヘラケズリ、上半部と底部はナデが残る。後者の甕も平底の可能性がある。4点とも精良な胎上で、当窯で焼成された遺物と考えるには困難な点もある。

また、他に、須恵器杯の周縁部を打ち欠き、窯内の焼台としたもの(第15図151)や焼成前に穿孔した円盤(152)、5面使用の硬質砂岩製の小型砥石(153)なども出土した。灰原からは、瓦も3点出土した。いずれも破片であったが、単弁八葉蓮華文の軒丸瓦(第16図154)、玉縁式の丸瓦(155)、平瓦は、いずれも奈良前期のもので、僅か3点とはいえ、近くに窯の存在を推定させた。中でも、軒丸瓦は、TN12号窯の北4kmにある禪寂寺の「端丸瓦第一形式」と同形である(大阪府教育委員会『禪寂寺(坂本寺)跡調査概要』1966年)。

また、調査中、谷山池の湯水期に分布調査したところ、谷山池56号窯、58号窯、61号窯からそれぞれ、奈良前期の須恵器・瓦を採集することができたので、資料紹介しておく(第17図)。谷山池61号窯は、足の踏み場もない程の大量の丸瓦・平瓦が池底に現れていた。縄文時代のサヌカイト製削器も採集された。以前には、梨本池のC84地点から平瓦片が採集されている。

ま　と　め

(遺構)

- ・ 古墳時代後期の須恵器窯跡を1基検出した。残存していたのは焼成部のみで、焼成回数は3回を数えることができた。
- ・ 灰原も残存していて、コンテナに40箱の須恵器が出土した。
- ・ 窯に近接した2箇所から土器群が検出され、完形品を含む多くの須恵器が出土した。
- ・ 窯南側の谷状地形から多くの須恵器が出土し、土器群と共に、窯出し後の須恵器選別場であった可能性が考えられた。
- ・ 窯南側15mの地点から近世の小溝が検出され、内部から巴文軒丸瓦や多量の小石が出土した。水抜き用の暗渠であった可能性が考えられた。

(遺物)

- ・ 出土須恵器は、古墳時代後期のものばかりで、時期差は認められなかった。
- ・ 出土須恵器の器種は、杯身、杯蓋、壺、甕、高杯、器台、提瓶、横瓶、はそう、鉢、すり鉢、婧壺などであった。
- ・ 出土須恵器の43.2%は甕の破片で、51.9%が杯、4.9%が高杯、壺、提瓶などであった。
- ・ 灰原出土の奈良時代前期の瓦の出土は、近隣に瓦を生産していた窯の存在を推定させた。
- ・ 灰原出土の単弁八葉蓮華文軒丸瓦は、和泉市阪本町所在の禪寂寺（坂本寺）出土のものと同范であり、谷山池地区で禪寂寺の瓦が生産されていたことを推定させた。

あとがき

資料の調査にあたり、四天王寺国際佛教大学名誉教授 藤沢一夫氏、和泉市教育委員会 白石耕治氏、大阪狭山市教育委員会 市川隆秀之氏、大野城市教育委員会 舟山良一氏にはご教示や便宜をはかっていただいた。記して感謝いたします。

参考文献

- 藤沢一夫 「揖河泉出土占瓦」様式分類の一試企・『佛教考古学論業』所収 1931
中村 浩 「陶邑」 I・II・III 大阪府教育委員会 1976,1977,1978
「和泉陶邑窯 出土須恵器の型式編年」 2001
田辺昭三 「陶邑古窯址群」 平安学園考古学クラブ 1966
和泉丘陵内遺跡調査会 「陶邑古窯址群」 1992

遺物観察表

番号	博物番号	器種	法量()は復元値(単位cm)				色調	残存率 (%)	備考	出土地区	実測番号
			口幅(上段) 受部幅(下段)	器高	底・高台径	その他					
1	8・14	杯蓋	15.4	3.5			(内) 青灰	45	外 天井部にヘラ記号あり。	窓体内	88
	14						(外) 灰				
2	8	杯蓋	(15.0)	3.9			(内) 灰	23		窓体内	94
	14						(外) 黒				
3	8・14	杯蓋	(13.0)	3.4			(内) 灰	30	外 天井部にヘラ記号あり。	窓体内	93
	14						(外) 灰				
4	8	杯蓋	14.4	3.7			(内) 青灰	55	内 自然釉付箇。	窓体内	89
	9						(外) 青灰				
5	8	杯蓋	14.2	5.2			(内) 灰	45	内 装飾の変れ一部にあり。 外 天井部円筒状に(径8cm)接着 部あり。成形時の粘土紐巻き上げの 凹凸がリング状に残る。	窓体内	90
	9・15						(外) 灰				
6	8	杯蓋	(13.0)	3.9			(内) 灰	30		窓体内	95
	9						(外) 雪灰				
7	8	杯身	(13.0) (15.7)	4.6		立上り 1.3	(内) 灰	55		窓体内	102
	15						(外) 灰				
8	8	杯身	(13.1) 15.0	4.2		立上り 0.8	(内) 青灰	40	成形時に杯蓋付箇。 内 外 窓体内付箇。	窓体内	91
	15						(外) 雪灰				
9	8・14	杯身		残3.2			(内) 灰	55	内外 自然釉付箇、施けひずみあり。 外 窓部にヘラ記号あり。	窓体内	92
	15						(外) 灰				
10	8	杯蓋	14.9	3.7			(内) 灰	40		窓体内	105
	9						(外) 雪青灰				
11	8	杯蓋	14.9	3.6			(内) 青灰	40		窓体内	103
	9						(外) 青灰				
12	8・14	杯蓋	13.1	3.3			(内) 灰	30	外 中央にヘラ切り痕(1cm)あり。	窓体内	107
	15						(外) 灰				
13	8	杯蓋	14.3	4.6			(内) 灰	50	外 中央凸部にヘラ傷と縫合ヘラケ ズリ痕あり。	窓体内	109
	9						(外) 雪青灰				
14	8・14	杯蓋	(14.2)	残4.4			(内) 雪灰	30	内外 窓体内付箇。 外 天井部にヘラ記号あり。	窓体内	101
	15						(外) 雪灰				
15	8	杯身	13.0 15.0	3.7		立上り 0.8	(内) 灰	60	内 中央に径8cmのリング状の設置 の変れ一部にあり。	窓体内	108
	9・15						(外) 灰				
16	8	杯身	(13.5) (15.6)	残4.0		立上り 1.0	(内) 雪青灰	30		窓体内	96
	9						(外) 灰				
17	8	杯身	(13.3) (15.4)	残4.4		立上り 0.8	(内) 青灰	35	内 中央にリング状に器紐の変れあ り(径5cm)。 外 中央にヘラ切り痕あり。(径2~ 3cm)。	窓体内	97
	9						(外) 雪灰				
18	8・14	杯身	13.0 15.2	4.3		立上り 0.5	(内) 灰	40	内外 窓体内付箇。 外 中央にカラタケ切り痕あり(径3cm) ヘラケズリカス付箇。	窓体内	106
	9						(外) 灰白				
19	8	短縦蓋		3.3	10.2		(内) 灰	45	外 天井部にヘラ切り未調整。	窓体内	111
	9						(外) 灰				
20	8	短縦寺蓋	(10.8)	3.4			(内) 青灰	10	外 天井部にヘラケズリ。 ヘラ切り痕多く残る。	窓体内	100
	9						(外) 青灰				
21	8	鍋壺		残2.1		穴径 0.7	(内) 灰	80	手すくね。 接合部で割離している。	窓体内	110
	9						(外) 灰				
22	8	鍋壺	4.4	7.0	4.8		(内) 灰	80	2孔1対の穿孔あり。 外 ヨコナデ、底部にヘラ切り痕あり。 内 口縁部に自然釉付箇。	窓体内	98
	9						(外) 灰				

番号	擇図番号 図版番号	種類	法貫()は復元値(単位cm)				色調	残存率 (%)	備考	出土地区	実測番号
			口径(上段) 受部径(下段)	器高	底・蓋合径	その他					
23	8	高杯		3.3	15.8		(内) 灰	5		實体	104
							(外) 灰				
24	8 9	蓋台		接19.7	(11.8)		(内) 灰白	30		實体	10
							(外) 灰白				
25	9 10・15	杯身	13.1 15.4	4.5		立上り 0.8	(内) 黒灰	100		土器群1	114
							(外) 黑灰				
26	9 10	杯身	13.2 15.4	4.3		立上り 1.0	(内) 灰白	60	焼成不良。 胎土に直径7mmの小石を少し含む。 外 自然粘付質。	土器群1	113
							(外) 灰白				
27	9・14 10	杯身	12.5 15.5	4.2		立上り 0.8	(内) 青灰	4.5	内 底部中央に同心円文あり。	土器群1	116
							(外) 青灰				
28	9 10	杯身	12.8 15.0	残4.1		立上り 0.7	(内) 灰白	30		土器群1	115
							(外) 灰				
29	9 10	杯身	11.9 14.4	4.5		立上り 0.8	(内) 青灰	100		土器群1	112
							(外) 灰				
30	9 10	蓋					(内) 青灰		肩部把手。	土器群1	118
							(外) 灰青				
31	9 10	高杯	15.9	11.0	裾幅 9.8		(内) 灰	90	方形スカシ3方向 内外 ヨコナデ 内 中央に跡止ヨコナデ。 外 脊部にヘラケズリ。 軸・脚接合部黒斑。	土器群1	117
							(外) 灰				
32	9 11	杯蓋	15.0	4.6			(内) 灰青	70		土器群2	121
							(外) 青灰				
33	9 11	杯身	12.7 15.2	4.9		立上り 0.7	(内) 灰	70	内 中央にリング状の基盤の荒れ一部 にあり(径7cm)。 外 中央にヘラ傷あり。	土器群2	140
							(外) 灰				
34	9 11	杯身	12.8 15.1	4.6		立上り 0.9	(内) 灰白	100	内 円形リング状の器盤の荒れ一部 にあり(径7cm)。 外 中央にヘラ傷あり。 底8mmの小石数点含む。	土器群2	119
							(外) 灰				
35	9・14	杯身	13.2 15.1	残4.3		立上り 0.9	(内) 青灰	40	ヘラケズリカス付箇。 外 天井部にヘラ記号あり。	土器群2	120
							(外) 青灰				
36	9	鍋底	(4.4)	残5.4			(内) 黒灰	29		土器群2	79
							(外) 明顯灰				
37	9	鍋底	(4.4)	残3.8			(内) 灰	20		土器群2	80
							(外) 錫灰				
38	9 11	高杯		残7.0	裾幅 (14.5)		(内) 青灰	10	脚部下半 方形スカシ3方向。	土器群2	122
							(外) 灰白				
39	9 10	蓋	(13.4)	(20.6)			(内) 灰青	20	外 脚部割れのため不明。 内 同心円タクキ。	土器群2	179
							(外) 灰青				
40	9 10	蓋	16.6	残8.7			(内) 灰白	40	格子タクキ。 内 同心円タクキあり。	土器群2	123
							(外) 灰青				
41	9 10	蓋	(40.2)	残11.6			(内) 灰	15		土器群2	87
							(外) 灰				
42	10	杯蓋	(17.2)	3.4			(内) 灰	15		實体南側	148
							(外) 灰				
43	10	杯蓋	15.8	残4.1			(内) 青灰	15		實体南側	147
							(外) 青灰				
44	10	杯蓋	14.2	3.3			(内) 青灰	40	内 天井面に同心円文あり。	實体南側	142
							(外) 青灰				

番号	鉢回数号 因版番号	器種	法量()は復元値(単位cm)				色調	残存率 (%)	備考	出土地区	実測番号
			口徑(上段) 受部径(下段)	基底	底・高台径	その他					
45	10・14	杯蓋	14.6	残3.8			(内)灰白 (外)灰	50	内 天井部に同心円文あり。	窓体南側	124
	11										
46	10・14	杯蓋	14.6	4.5			(内)青灰 (外)青灰	70	内 中央の往7cmの範囲に落葉の兆 九一部にあり。	窓体南側	141
	11										
47	10・14	杯蓋	13.4	4.7			(内)灰 (外)灰	90	内 中央に錐止ナデと往7cmのリン グ状の器壁の壊れ一部にあり。 外 中央に小さなへラ切り痕(1ea) あり。	窓体南側	128
	11・15										
48	10	杯蓋	(14.0)	残3.6			(内)灰 (外)灰	10	分厚い円板状の天井部。 内外 口縁部にヨコナデ。 外 天井部にヘラケズリ。	窓体南側	185
	11										
49	10	杯身	12.8 15.2	4.3		立上り 1.0	(内)灰白 (外)灰	90	受面に蓋の口縁が付着。 内外 窓体付着。	窓体南側	130
	11										
50	10	杯身	13.6 15.7	4.2		立上り 0.9	(内)灰白 (外)灰	95		窓体南側	131
	11・15										
51	10・14	杯身	13.2 15.5	3.8		立上り 0.8	(内)灰白 (外)灰	25	外 天井部にヘラ記号あり。	窓体南側	127
	11										
52	10	杯身	12.8 15.3	残4.1		立上り 0.5	(内)灰白 (外)明透灰	15		窓体南側	149
	11										
53	10	杯身	12.0 14.7	残3.7		立上り 0.3	(内)灰白 (外)灰	25		窓体南側	125
	11										
54	10	杯身	12.8	残2.9			(内)灰白 (外)灰	10	受面に蓋の口縁が付着。	窓体南側	126
	11										
55	10	杯蓋	16.0	4.6		つまみ径 2.8	(内)灰白 (外)灰黄	40	外 全体に自然釉付着。	窓体南側	132
	11										
56	10	無蓋高杯	13.2	残7.3			(内)灰白 (外)灰白	70	方形容スカシ3方向。	窓体南側	129
	12										
57	10	壺	馬大径 13.2	残9.4			(内)灰白 (外)灰	80	外 底部にヘラケズリ、底～体間に カキ目、体部上半にヨコナデ。	窓体南側	136
	12										
58	10	接瓶					(内)灰 (外)灰白		把手 外 自然釉付着。	窓体南側	135
	11										
59	10	壺	14.4	14.8			(内)椎 (外)椎	40	外 ヘラミガキ、ヘラケズリ。 外底 指すサ工後、ナデ。	窓体南側	139
	12										
60	10	壺	18.6	残3.6			(内)流黄 (外)流黄	20	焼成不良。	窓体南側	138
	11										
61	12	壺	30.8	残5.3			(内)灰 (外)灰	14		窓体南側	137
	13										
62	11	杯蓋	14.0	4.7			(内)青灰 (外)青灰	70		灰層1区	3
	12										
63	11	杯蓋	(13.0)	残3.2			(内)灰灰 (外)青灰	20	内 富体の砂付着。	灰層1区	1
	12										
64	11	杯蓋	(10.6)	残3.3			(内)灰灰 (外)青灰	20	外 自然釉付着。 確認検査の可能性も。	灰層1区	2
	12										
65	11	杯身	(14.0) (16.2)	4.4		立上り 0.7	(内)褐灰 (外)灰	30	内 同心円文あり。	灰層1区	11
	12										
66	11	杯身	(12.7) (14.4)	残4.5		立上り 0.9	(内)灰黄 (外)灰灰	30	内 富体付着。	灰層1区	4
	12										

番号	擇図番号 （国庫番号）	器種	法量()は復元値(単位cm)				色試	焼存率 (%)	備考	出土地区	実測番号
			口径(上段) 底部径(下段)	高さ	底・高合径	その他					
67	11	杯盤		残1.8		つまみ径 3.5	(内) 淡 (外) 淡	90		灰層1区	15
68	11	杯盤		残2.0		つまみ径 3.7	(内) 暗青灰 (外) 灰白	80		灰層1区	7
69	11	高杯	(12.4)	残3.3			(内) 灰 (外) 雪青灰	12	口縁～体部に輪いくびれ。 外・底部にヘラケスリ。	灰層1区	12
70	11	高杯		残8.2	(11.2)		(内) 灰寒 (外) 反寒	20	脚部下半 方形スカシ3方向。	灰層1区	8
71	11	高杯		残5.4	(14.0)		(内) 黄灰 (外) 油灰	20	脚部下半 方形スカシ3方向。	灰層1区	16
72	11	ハソウ	(9.8)	残3.2			(内) 明青灰 (外) 灰	20	内 密体付着。	灰層1区	5
73	11	攢指					(内) 灰白 (外) 灰白			灰層1区	17
74	11 16	壺	(14.0)	残6.4			(内) 灰白 (外) 灰白	23		灰層1区	23
75	11 16	壺	(46.0)	残11.2			(内) 青灰 (外) 灰白		ヘラによる施文 キザミ文。	灰層1区	9
76	11 16	鉢	(10.6)	残11.7			(内) 灰 (外) 増灰	20	精良な鉢足。 内外・口縁～体部にヨコナデ。 外・底部にヘラケスリ。	灰層1区	190
77	11・14 14	杯盤	(15.4)	4.6			(内) 雪青灰 (外) 黒	40	外 天井面にヘラ記号あり。 天井面にヘラ切り痕あり(径2~3mm)。	灰層2区	20
78	11 12・15	杯盤	(15.0)	3.0			(内) 灰黃 (外) 灰	30		灰層2区	38
79	11 12	杯盤	14.2	4.6			(内) 灰 (外) 灰	80	内 中央附近に同心円文あり。 外 多量に自然釉付着。	灰層2区	29
80	11	杯舟	(14.0) (16.0)	残3.7		立上り 0.8	(内) 灰 (外) 灰	25	焼きひずみあり。	灰層2区	72
81	11	杯舟	(14.0) (16.0)	残3.0		立上り 0.8	(内) 灰 (外) 灰	30	内外 密体付着。	灰層2区	70
82	11	杯舟	(14.0) (16.0)	残3.4		立上り 0.8	(内) 灰 (外) 灰	20	内外 底部に釉付着。	灰層2区	73
83	11	杯舟	(13.8) (16.0)	残3.1		立上り 0.7	(内) 灰 (外) 灰	30		灰層2区	71
84	11	杯舟	(14.0) (16.0)	残3.6		立上り 1.0	(内) 灰白 (外) 灰	15		灰層2区	26
85	11	杯舟	(13.0) (15.0)	残3.3		立上り 0.7	(内) 灰黃 (外) 増灰黃	35	受部に釉付着。	灰層2区	23
86	11	杯舟	(14.2) (16.4)	残3.0		立上り 0.8	(内) 灰 (外) 灰	20		灰層2区	26
87	11 13	杯舟	(12.6) (14.8)	3.4		立上り 0.7	(内) 灰 (外) 灰	85	外 中央にヘラ切り痕の小突起あり(径7mm)。	灰層2区	32
88	11	杯舟	(13.0) (16.3)	残3.4		立上り 0.9	(内) 灰白 (外) 灰白	25	内 同心円文あり。	灰層2区	35

番号	博古番号 因版番号	基種	法量()は復元値(単位:cm)				色調	残存率 (%)	備考	出土地区	実測番号
			口径(上段) 受部底(下段)	底高	底・高台径	その他					
89	11	杯身	(13.0) (14.9)	残4.0		立上り 0.7	(内) 灰 (外) 灰	45	内 着墨の變れ一箇所あり。 外 ヘラケズリとハケ状工具での強 い日コナデ痕あり。	灰原2区	21
90	11	杯身	(12.8) (15.0)	残4.3		立上り 0.8	(内) 灰白 (外) 灰白-7	20	内 同心円文あり。	灰原2区	24
91	11	杯身	(12.6) (14.8)	4.6		立上り 1.2	(内) 灰白 (外) 灰青	60	外 直部にヘラ記号あり。 中央にヘラ切り痕(径1cm)あり。	灰原2区	36
92	12	高杯	(13.0)	残4.0			(内) 青灰青 (外) 青灰青	25	内 天井部に同心円文、粘土カスア リ。	灰原2区	69
93	12	杯身	(13.1) (15.4)	残3.8		立上り 0.8	(内) 灰 (外) 灰	40	内 中央に同心円文あり。	灰原2区	22
94	12	杯身	12.0 14.8	4.2		立上り 0.6	(内) 灰 (外) 鳴沢	98		灰原2区	34
95	12	盃	(8.0)	残6.9			(内) 灰 (外) 灰	30	外 斜部に蓋(径10.5cm)の付着痕 あり。	灰原2区	74
96	12	直口壺		残5.5		底部径 (5.5)	(内) 灰青 (外) 灰青	20	焼成不良。 外 赤色顔料滲出。	灰原2区	76
97	12	杯蓋	(14.5)	5.4			(内) 青灰 (外) 灰	50	内 中央に跡ナデあり。 外 マツミ(2.9cm)。	灰原2区	33
98	12	直口壺	(7.6)	残2.7			(内) 灰 (外) 灰	20	内 ヨコナデ。 外 天井部にヘラケズリ、口縁部にヨコナデ。	灰原2区	181
99	12	無蓋高杯	(12.0)	残3.8			(内) にい青 (外) 灰	47	内外 ヨコナデ。 内 別個体着底あり。 外 底部削鉗。	灰原2区	31
100	12	無蓋高杯	(13.8)	残5.2			(内) 灰 (外) 灰	15	内外 ヨコナデ。 内 底部にナデ。 外 一条の旋線あり。	灰原2区	186
101	12	高杯		残7.6	基部径 4.2		(内) 灰-7 (外) 灰	70	スカシなし。	灰原2区	86
102	12	高杯		残4.0	底部 (11.0)		(内) 青灰 (外) 青灰	25	底部に径5.5cmの円形スカシあり。 (2~3ヶ所)	灰原2区	77
103	12	高杯		残4.0	7.6		(内) 灰 (外) 灰	45	焼成やや不良。 方形スカシ3方向。	灰原2区	192
104	12	高杯		残3.8	(12.0)		(内) 灰 (外) 鳴沢	20	方形スカシ3方向 外 方キ日。	灰原2区	78
105	12	高杯		残5.0	(12.8)		(内) 黒 (外) 黒	20	脚部下半 方形スカシ3方向。 盤の脚か。	灰原2区	85
106	12	高杯		残9.2	(15.0)		(内) 灰 (外) 灰	15	脚部下半 方形スカシ3方向。	灰原2区	84
107	12	盃	(24.7)	残3.1			(内) 灰 (外) 灰	29		灰原2区	83
108	12	壺規	(11.6)	残7.5			(内) 灰 (外) 灰	40	脚部錐合痕あり。	灰原2区	81
109	12	すり鉢		残7.9	(9.0)		(内) 白 (外) 白	20	分厚い円板状の底盤。 盤の粘土を4~5枚重ね合わせて。 表面調整。 内外 体側にヨコナデ。	灰原2区	191
110	12+14	杯蓋	(15.4)	残3.5			(内) 青灰 (外) 灰	25	外 天井部にヘラ記号あり。	灰原2区	45

番号	伴回番号 図版番号	基盤	法量()は復元値(単位cm)				色調	残存率 (%)	備考	出土地区	実測番号
			口径(上段) 厚部径(下段)	基高	底・高台径	その他					
111	12	杯裏	(15.4)	4.0			(内) 灰黄	37	外 天井部に径4cmの凹みあり。	灰塵3区	39
	12.						(外) 黄灰				
112	12.	杯裏	(14.0)	残2.9			(内) 灰	10	内外 口縁部にヨコナデ。 外 天井部にヘラケズリ。一束の走線あり。高杯の可能性も。	灰塵3区	182
							(外) 灰				
113	12.	杯裏	(14.2)	残4.1			(内) 灰	10	内外 ヨコナデ。	灰塵3区	44
							(外) 灰白				
114	12・14	杯身	(15.1) (16.7)	2.5		立上り 1.1	(内) 灰	35		灰塵3区	37
							(外) 鳥灰				
115	12	杯身	(13.4) (16.0)	2.7		立上り 0.6	(内) 灰	22		灰塵3区	40
							(外) 灰				
116	12	楕瓶	(12.0)	残6.0			(内) 灰白	35	内 体部内面黒色。	灰塵3区	47
	16						(外) 灰				
117	12	壺	(14.0)	残5.5			(内) 淡黄	10	焼成不良。 少し壺状に肥厚する口縁。	灰塵3区	188
							(外) 淡黄				
118	12	ハソウ	(13.4)	残2.3			(内) 灰白	25	内 自然釉付箇。	灰塵3区	41
							(外) 灰-? 黑				
119	12	蓋杯		残2.2	(11.2)		(内) 喻青灰	20	壺部にスカシの小円孔あり。	灰塵3区	43
							(外) 喻青灰				
120	12	壺		残3.1	(5.0)		(内) 灰	20	内 実体付箇。 外 ヨコナデ、段あり。	灰塵3区	189
							(外) 灰				
121	12	杯蓋	15.2	4.4			(内) にい青	20		灰塵4区	54
							(外) 灰黄				
122	12	杯蓋	15.0	4.7			(内) 灰	25	内 ややシャープな棱線あり。	灰塵4区	52
							(外) 灰				
123	12・14 12・15	杯蓋	16.2	4.0			(内) にい青	30	外 天井部にヘラ記号あり。 赤色器科塗装。	灰塵4区	55
							(外) にい青				
124	12	杯蓋	14.0	3.6			(内) 青灰	80	内 中央附近にかすかに同心円文あり。 外 中央にヘラ切り痕あり。	灰塵4区	66
	12						(外) 灰白				
125	12	杯身	(12.0) (14.5)	3.8		立上り 0.8	(内) 灰灰	45	外 中央に径5.5cmのリング状の凹 縫の変形一部にあり。	灰塵4区	56
	13						(外) 灰				
126	12	杯身	15.9 17.7	3.5		立上り 0.8	(内) 灰白	15		灰塵4区	53
							(外) 灰				
127	12	高杯		残5.2	(11.0)		(内) 灰白	30	脚部内面 自然釉付箇。 スカシなし。	灰塵4区	67
	13						(外) 黄灰				
128	12	高杯		残13.2	沈縁径 5.7		(内) 淡青	30	方形スカシ3方向。	灰塵4区	61
							(外) 灰				
129	13	提把握					(内) 紺灰	100	把手。	灰塵4区	58
							(外) 灰				
130	13	提把握					(内) 灰	100	半球状に手すくねの把手をつける。	灰塵4区	59
	16						(外) 灰				
131	13	提把握					(内) 黄灰	100	把手。	灰塵4区	57
							(外) 灰				
132	13	提把握					(内) 青灰	100	把手。	灰塵4区	60
							(外) 青灰				

番号	掉落番号 （図版番号）	断面	法量()は復元体(単位cm)				色調	保存率 (%)	備考	出土地区	実測番号
			口径(上段) 受部径(下段)	高さ	底・高台径	その他					
133	13	煙	(9.1)	残4.7			(内) 灰白 (外) 灰	10	焼成や不良。 内外 口縁にヨコナデ。 外 頭部に2条の沈線、波状文あり。	灰原4区	184
134	13	煙	(12.2)	残4.2			(内) 細灰 (外) 灰	40	角張った口縁と短い頭部。 内 黒色。	灰原4区	185
135	13	鉢	(13.6)	残7.0			(内) 灰 (外) 灰	10	分厚い器壁。	灰原4区	187
136	13	煙	(9.6)	残4.1			(内) 灰白 (外) 灰白	20	焼成や不良。 内外 口縁～頭部にヨコナデ。	灰原4区	188
137	13	甕	(23.0)	残7.8			(内) 灰白 (外) 灰	10		灰原4区	63
138	13	甕	(23.0)	残8.7			(内) 灰 (外) 鮎灰	20	外 自然釉付箇。	灰原4区	68
139	13	甕		残9.2			(内) 灰 (外) 灰白	15		灰原4区	62
140	13	甕	(22.0)	残13.1			(内) 鮎灰 (外) 灰白	25	自然釉多量に付箇。	灰原4区	64
141	13	杯身	14.5 16.8	3.4		立上り 0.7	(内) 青灰 (外) 鮎青灰	40	内外 肥腹付箇。	包含層	145
142	13	杯身	12.5 15.1	3.7		立上り 0.7	(内) 灰 (外) 灰	80	焼きひずみあり。 外 中央にヘラ切り痕あり (径2mm)。	包含層	144
143	13	杯身	11.5 14.0	残3.8		立上り 0.5	(内) 灰 (外) 灰白	30	内 口縁～底部にヨコナデ。 外 体部に弱いヨコナデ、底部にヘラ切り未調合とナデ。	包含層	143
144	13	瓶底	9.1	残3.2			(内) 灰 (外) 灰	70		包含層	146
145	14	杯身					(内) (外)		外 天井部ヘラ記号あり。	灰原4区	—
146	14	杯身					(内) (外)		外 天井部ヘラ記号あり。 ヘラ切り痕あり。	灰原1区	—
147	14	杯身					(内) (外)		外 天井部ヘラ記号あり。	灰原4区	—
148	14	杯身					(内) (外)		外 天井部ヘラ記号あり。	灰原2区	—
149	14	杯身					(内) (外)		外 天井部ヘラ記号あり。	灰原3区	—
150	14	杯身					(内) (外)		外 天井部ヘラ記号あり。	灰原4区	—
151	15	道具	11.3				(内) 灰 (外) 灰	50	杯の天井部。 外縁を打ち欠く。	灰原2区	27
152	15	有孔円錐					直径 4.6 厚さ 0.9	50		灰原1区	6
153	17	杯蓋	15.1	2.7			(内) 青灰 (外) 増青灰	60		TN56調査	167
154	17	杯蓋	(17.3)	2.4			(内) 青灰 (外) 青灰	35	内外 ヨコナデ。	TN56調査	166

番号	持団番号	器種	法量()は復元値(単位cm)				色調	残存率 (%)	備考	出土地区	実測番号
			口径(上段) 肩部底(下段)	器高	底・高合径	その他					
158	17	杯蓋	(19.7)	2.9			(内) 青灰	20	内外 ヨコナデ後ナデ。 外 ヨコナデ。	TN56表採	155
							(外) 青灰				
159	17	杯身	(15.2)	3.9	(10.5)		(内) 青灰	45	内外 ヨコナデ。 外 色部に黒なナデ。	TN56表採	158
							(外) 青灰				
160	17	杯身	(16.5)	4.3	(12.5)		(内) 青灰	50	内外 ヨコナデ。	TN56表採	162
							(外) 青灰				
161	17	杯身	(17.8)	4.6	(12.6)		(内) 青灰	25	内外 ヨコナデ、ナデ。 外 ヨコナデ。	TN56表採	164
							(外) 青灰				
162	17	杯身	(15.8)	3.9	(11.0)		(内) 灰白	30	内外 ヨコナデ。 内 色部に静止ナデ。 外 色部に進むナデ。	TN56表採	156
							(外) 灰				
163	17	杯身	(12.6)	3.4			(内) 灰	45	外 色部全面にヘラ切り痕あり。	TN56表採	155
							(外) 灰				
164	17	杯身	(14.2)	残4.0			(内) 反	20		TN56表採	153
							(外) 青灰				
165	17	杯身	(14.0)	残3.8			(内) 反白	20		TN56表採	152
							(外) 反白				
166	17	杯身	(16.5)	残5.7			(内) 灰	15		TN56表採	151
							(外) 青灰				
167	17	杯身	(17.0)	残5.4			(内) 青灰	23	内外 ヨコナデ。 内 色部に静止ナデ。	TN56表採	154
							(外) 青灰				
168	17	杯蓋		残2.2		つまみ径 3.4	(内) 灰		内 ナデ。 外 ヨコナデ。	TN56西表採	170
							(外) 灰				
169	17	杯身	15.5	4.2	10.8		(内) 青灰	15		TN56西表採	169
							(外) 青灰				
170	17	長颈瓶		残7.0		肩部径 16.5	(内) 灰	10	外 ヨコナデ、ナデ。	TN56西表採	168
							(外) 灰				

凡例 1. 器高欄の「残」は「残存高」を示す。

2. その他の欄の杯身の「立上り」は「立上り高」を示す。

3. 備考欄の「外」・「内」は「外面」・「内面」を示す。

4. 杯蓋、身の調整は外面の天井部・底部をヘラケズリ、口縁部をヨコナデ調整、内面はヨコナデ調整である。

又他の器種でもヨコナデ調整が行われている。

報告書抄録

ふりがな	すえむら・たにやまいけ12ごうよう
書名	陶邑・谷山池12号窯
副書名	
巻次	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2000-5
編著者名	今村道雄
編集機関	大阪府教育委員会
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL 06-6941-0351
発行年月日	2001年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村					
すえむらやまとぐん 陶邑窯跡群	いのみし 和泉市 かじやちょう 鐵冶屋町・ うらたぢょう 浦田町	27219	34° 26' 47"	135° 28' 7"	1998年8月 1998年12月	2,800m ²	柑橘母樹 園跡地整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
陶邑窯跡群	生産遺跡	古墳時代後期	窯跡、灰原	須恵器・杯蓋・ 杯・高杯・提瓶・ 横瓶・甕等	谷山池地区の 登窯と灰原の 調査

写 真 図 版



59

南側谷出土



(上) 调查区远景



(下) 调查区近景



(上) 機械掘削状況



(下) 灰原除去後の旧地形



(上) 窯体調査状況（東から）



(下) 窯体調査状況（南から）



(上) 床面遺物出土状況



(下) 床面遺物出土状況



(上) 窯南側土器群1 出土狀況



(下) 窯南側土器群1 出土狀況



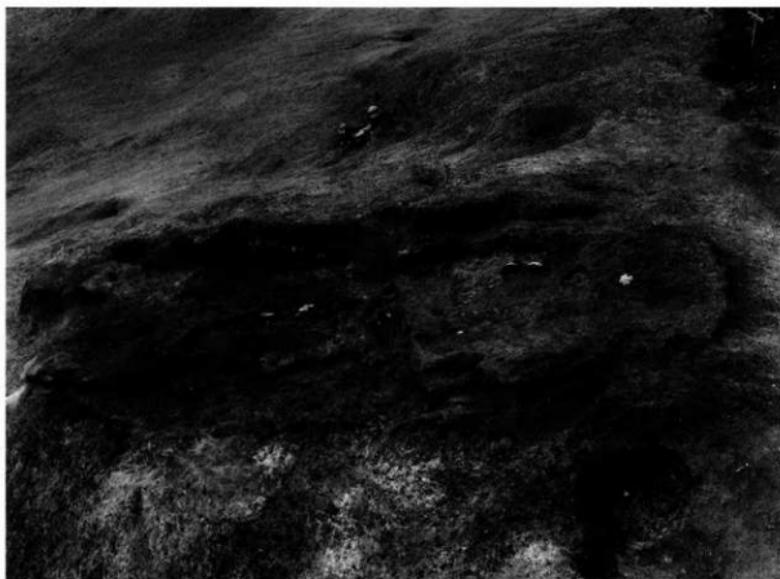
(上) 窯南側土器群1 出土狀況（細部）



(下) 窯南側土器群2 出土狀況（細部）



(上) 窯体検出土状況（北から）



(下) 窯体検出土状況（北から）



(上) 烟体断ち割り状況



(下) 近世溝検出状況



5



4



10



19



13



22



17

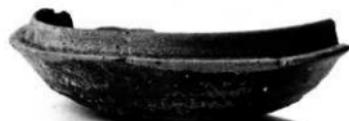


18

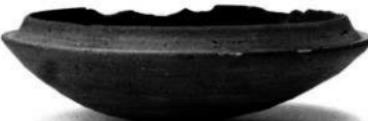


15

24



27



25



69



26



39



31



40



30



41



32



34



38



33



55



45



51



47



49



46



50



57



56



59



62



79



123



78



111



124



91



93



87



94



97



125



99



102



105



106



127



156



163



142



176



144



177



178



179



154



36



180



181



37



182



3



1



77



9



123



50



25



5



78



15



47



140



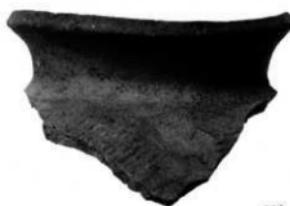
75



139



95



116



74



76



108



130



152

大阪府埋蔵文化財調査報告 2000-5

陶邑・谷山池12号窯

発行 大阪府教育委員会

〒540-8571

大阪市中央区大手前2丁目

TEL. 06-6941-0351

発行日 2001年3月

印刷 サツキ印刷株式会社

TEL. 072-828-0171

